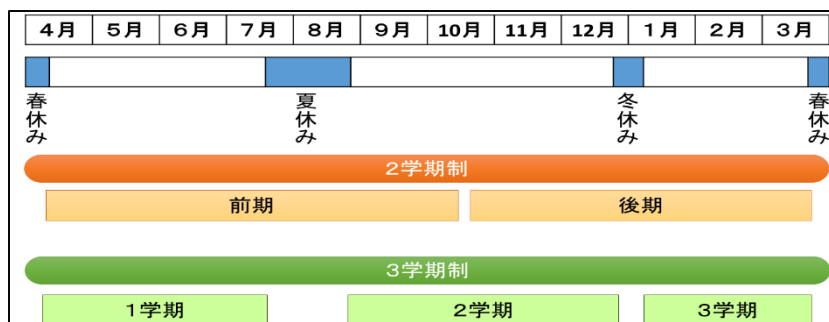


2 学期制についての Q & A

志免町教育委員会作成

Q 1 2 学期制とはどのようなことですか。

A 2 学期制は、1 年間を 4 月～10 月上旬（前期）と 10 月中旬～3 月（後期）の 2 学期で構成しようとするものです。



Q 2 3 学期制から 2 学期制になると具体的に何が変わりますか。

A 3 学期制から 2 学期制になると、主に次のようなことが変わります。

- ◆ 始業式、終業式（修了式）が 6 回から 4 回に減ります。
- ◆ 「通知表」が 3 回から 2 回になります。
- ◆ 年間の授業時数が 20 時間程度増えます。
- ◆ 中学校ではテスト（実力テスト含む）の回数が年間 10 回から 9 回に減ります。

Q 3 なぜ 2 学期制を導入したのですか。

A 2 学期制の導入によって、学校の教育活動にゆとりを生み出し、通常の学習をこれまで以上に充実させたり、教師と子どもが触れ合う時間が増えたりすることで、よりきめ細かな指導ができるようになるからです。

Q 4 2 学期制のメリットは何ですか。

A 志免町の状況や、実施している他の地域の情報から次のようなことが期待できます。また、この他にも学校の取り組みの工夫によって、様々な教育効果を生み出すことが可能です。

1. 授業時数を多く生み出すことが可能になり、これまで以上にきめ細やかな指導、学習を定着させる継続的な指導ができるようになります。

始業式等の行事の削減や事務的な仕事を削減したり時期を移動したりすることによって、1 年間の授業時間数を約 20 時間程度（学校や学年によって時数は多少変わってきます）これまでよりも多く生み出すことができます。その結果、先生方に時間的ゆとりができ、授業のきめ細かな準備、児童生徒にかかわる時間の増加、学習を定着させる継続的な指導と評価など、様々な面で教育の効果をあげていく活動に繋げることが可能になります。

2. 7 月と 12 月の慌しさが軽減され、児童生徒、先生ともに落ち着いて学習や指導に専念できるようになります。

7 月上旬～中旬は、評価問題の作成、実施、処理、通知表の作成、学期の反省、夏季休業中の生活指導等が集中し、先生にとっては慌ただしい期間となっています。特に中学校では、

この時期中体連の試合前で、最も練習に熱が入る大切な時間でもあります。これが2学期制になれば、生徒は中体連期間中までは、中体連の練習や試合に集中することができ、中体連の大会が終了したあとに学期末テスト等に向けた勉強に励むことができ、7月までの学習に気持ちを切り替えて落ち着いて勉強することができます。

先生も夏休みをうまく活用することで、テスト問題の作成や通知表作成に向けての成績処理や事務処理を計画的に整理しておくことができ、日々の学習指導や部活動の指導に力を入れることができます。

また12月も7月と同じような慌たしさがあります。特に中学校3年生にとっては、進路決定の大事な時期です。2学期制になれば、この時期の先生の事務処理が少なくなり、進路相談や進路指導に専念できるようになります。

3. 夏季休業期間を効果的に活用することで、授業や各種教育活動に専念できる時間を増やし子どもにかかわる時間を増やすことができます。

教育相談（個人面談や三者面談など）を夏季休業前や休業中に行うこともできます。春の家庭訪問には、春に行くよさがありますが、この時期に個人面談や三者面談を行うことには、次のようなよさが考えられます。4月～7月までの子どもたちの学習や生活の様子を、先生からじっくり話してもらうことができます。夏休み前に通知表をもらいませんが、通知表での連絡以上の細かな話、個々の子どもにあった話を先生は行うことができます。

また、夏季休業期間中にテスト問題の作成や通知表作成に向けての成績処理や事務処理をすることで、9月始まってからの先生の仕事を整理しておくことができ、より授業の充実に努めることができます。

4. 長いスパンで児童生徒を観察し、評価することができます。

学習指導要領では、学校は意欲や態度等も含めて絶対評価（子ども同士を比べて一定の比率で評定を出すのではなく、学習の目標に到達しているかどうかで評定する方法）を行うことになっていますが、この評価を行うためには、比較的長期間にわたる細かな観察と指導の記録が必要になってきます。

2学期制によって通知表による家庭への連絡は、3回から2回に減りますが、前期、後期約5カ月、長期的に児童生徒の向上や変容を評価し、家庭へ連絡していくことができます。児童生徒の学習や生活の様子について、通知表において保護者に伝える情報量が減ることについては、夏休みの家庭訪問や個人面談、各種通信を工夫して学校と家庭との連携を図ります。

Q 5 2学期制にデメリットはないのですか。

A 2学期制の経験がない保護者世代や他地域からの転入の際に、不安やとまどいが一部見られるようです。しかし、子どもの学力保障や授業の遅れ、授業時数の減少、教師と子どものかかわり等、子どもの側にたった教育といった観点からは、デメリットはほとんどありません。

強いてあげるとするならば、児童生徒の学習や生活の様子についてお知らせする通知表での家庭連絡が3回から、2回に減るということです。しかし、このことは2学期制のメリットとしてもとらえられています。2学期制による通知表では、前期、後期約5カ月と長期的に児童生徒の向上や変容を評価し家庭へ連絡することができます。

学習指導要領では、絶対評価を行うことになっていますが、この評価は、比較的長期間にわたる細

かな観察と指導の記録が必要になってきます。絶対評価を確実に行おうとすれば、2学期制の方が適していると言えます。家庭に連絡する情報が量的に減ることについては、家庭訪問や個人面談、各種通信を工夫することで、これまで以上の内容の充実を目指していきます。

Q 6 2学期制になって学力が低下することはありませんか。

A 学力の向上を目的とした2学期制であって、これまでと比べて学力が低下することはありません。その理由としては次のようなことがあります。

- ◆学習内容はこれまでとまったく変わりません。時間数が増える分、補充や発展の学習内容が増えることはあります。
- ◆学習の年間指導計画もこれまでとほとんど変わりませんし、進度が遅れることもありません。
- ◆1年間の総授業日数もこれまでとまったく変わりません。
- ◆先生方の授業方法も基本的に変わりません。先生方に少しゆとりができる部分、授業の充実が図られ、子どもとかわる時間も増えます。

Q 7 中学校では定期考査の回数が減ることの影響はありませんか。

A 3学期制に比べると1回減りますのでテストの間隔や範囲は若干広くなります。時期や出題内容については、2学期制の教育課程に応じた形で計画的に実施しますので、生徒が負担過重になることはありません。

また、現在行われている評価の考え方では、単元ごとのテストや課題提出の中で子どもの学習状況を把握する等、日常の学習の評価がより大切になっていますので定期テストのみで評価することはありません。

Q 8 高校入試に関する事務（調査書作成等）への影響はありませんか。

A 一般に、高校入試に関わる調査書は、12月初旬の三者面談（進路相談）後、12月中旬から下書きを始めます。私立高校については12月末から清書をし、願書とともに1月中旬に高校側に提出します。公立高校についても年明け早々に清書を開始します。そして、2月中旬に願書とともに高校側に提出します。

入試に関わる事務には変化はありませんが、2学期制が導入されると、先生方にとっては、12月における成績処理や通知表作成にかかる膨大な事務がなくなるため、これまで以上に生徒や保護者との綿密な三者面談（進路相談）が可能となりますし、余裕をもった調査書の作成が可能となります。

Q 9 中学校では中体連への影響はありませんか。

A 中体連の大会は、例年7月上旬から粕屋区大会が始まり、7月下旬に筑前地区大会と福岡県大会が行われます。3学期制のもとでは、7月になると先生方は学期末の成績処理や通知表作成のために多くの時間をとられ、放課後の部活動の指導にあたるのが厳しい状況でした。

2学期制が導入により、先生方に時間的なゆとりができ、大切な総仕上げの時期である7月に、部活動の指導にもじっくりと腰を据えてあたるのが可能となります。また、夏休み期間中の部活指導についてはこれまでと変わりはありません。